

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習	通年	火1・火2	10
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ソーシャルワーカーはサービス利用者の立場に立ち、利用者の気持ちに寄り添いながらニーズ解決に向けて支援をしていく。実際に支援する際にはソーシャルワークの理念、価値、知識に基づいた技術を用いるが、本科目ではこの支援技術を総合的に学習する。知識と実践をつなげてより深くソーシャルワークを学ぶことがねらいである。</p> <p>到達目標 この科目を通して、ソーシャルワーク実践の基礎的な知識と経験を習得することができます。具体的には、①ワーカーの姿勢、②コミュニケーション技術、③ソーシャルワークのプロセス、④ケース検討を通じた支援内容、⑤支援計画作成方法を習得する。また、施設体験学習を通して社会福祉実践の方法や課題、ワーカーが直面する葛藤等を学ぶ。</p>	<p>本科目は、社会福祉士受験資格取得のために必要な科目です。実際の場を再現して追体験をしたり、コミュニケーション技術の練習をしたり事例検討をしたりします。講義形式とは異なり参加型のプログラムが中心なので、受講生の積極的参加が求められます。施設体験学習では教室では学べないことをたくさん学ぶことができますのでしっかり準備をして実り多いものにしましょう。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：他科目との関連性を理解すると共に本講義の目的を理解する。	他科目との関連性を確認する。
	2	ソーシャルワークの理念、価値	配布資料を読み直して復習する
	3	自己覚知① ライフヒストリー、他者理解	配布資料を読み直して復習する
	4	自己覚知② 価値観交流、援助者としての価値	配布資料を読み直して復習する
	5	基本的コミュニケーション①コミュニケーションの基本的理解	施設体験学習希望届けに記入する
	6	基本的コミュニケーション②言語的、準言語的、非言語的コミュニケーション	配布資料を読み直して復習する
	7	基本的面接技法① 受容・傾聴・共感	配布資料を読み直して復習する
	8	基本的面接技法② 受容・傾聴・共感	施設体験学習事前訪問準備
	9	社会福祉専門職の実践を理解する①高齢者	配布資料の読み直しと発表準備
	10	社会福祉専門職の実践を理解する②障害者	配布資料を読み直して復習する
	11	社会福祉専門職の実践を理解する③子育て家庭	配布資料を読み直して復習する
	12	社会福祉専門職の実践を理解する④地域福祉	配布資料を読み直して復習する
	13	社会福祉専門職の実践を理解する⑤更生保護、その他	配布資料を読み直して復習する
	14	社会福祉専門職の実践を理解する⑥他職種連携	配布資料を読み直して復習する
	15	前期まとめ	前期のふりかえりをする
	16	相談援助の対象、ニーズ。 相談援助の機能	施設体験学習前の事前訪問準備
	17	ニーズの発見	配布資料を読み直して復習する
	18	インテーク/アセスメント	配布資料を読み直して復習する
	19	プランニング、支援の実施	施設体験学習の日誌を作成する
	20	モニタリング、効果測定	施設体験学習の日誌を作成する
	21	支援集結、アフターケア	施設体験学習の日誌を作成する
	22	事例学習①エコロジカルモデル、システム理論	事例学習のふりかえりをする
	23	事例学習②バイオ・サイコ・ソーシャルモデル	事例学習のふりかえりをする
	24	事例学習③エンパワメントアプローチ	事例学習のふりかえりをする
	25	事例学習④ナラティブアプローチ	事例学習のふりかえりをする
	26	事例学習⑤地域組織化アプローチ	事例学習のふりかえりをする
	27	事例学習⑥ソーシャルアクションアプローチ	事例学習のふりかえりをする
	28	社会資源の発掘および活用	配布資料を読み直して復習する
	29	ジェネラリストソーシャルワーク①	配布資料を読み直して復習する
30	ジェネラリストソーシャルワーク②	配布資料を読み直して復習する	
31	まとめ	まとめをする	

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 教科書および参考文献は随時紹介する。</p>
	<p>学びの手立て ①履修の心構え：社会福祉士受験資格取得のために必要な科目も合わせて履修する。2コマ連続の科目であるが、1コマ目の授業開始時にのみ出席確認を行う。 ②学びを深めるために：ボランティア活動に積極的に参加する。ソーシャルワークに関連する文献、研究雑誌を幅広く読む。</p>
	<p>評価 演習への積極的な参加意欲30%、出席状況25%、課題提出状況25%、施設体験学習の総合評価20%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 (1) 関連科目： 現代社会と福祉、相談援助の理論と方法、相談援助の基盤と専門職、その他 社会福祉士国家試験受験資格を取得するために必要な科目。 (2) 次のステージ：相談援助実習が実り多いものになるよう、さらに勉強と実践に励んでほしい。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習	通年	火1・火2	10
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-竹藤 登	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ソーシャルワーカーはサービス利用者の立場に立ち、利用者の気持ちに寄り添いながらニーズ解決に向けて支援をしていく。実際に支援する際にはソーシャルワークの理念、価値、知識に基づいた技術を用いるが、本科目ではこの支援技術を総合的に学習する。知識と実践をつなげてより深くソーシャルワークを学ぶことがねらいである。</p> <p>到達目標 この科目を通して、ソーシャルワーク実践の基礎的な知識と経験を習得することができます。具体的には、①ワーカーの姿勢、②コミュニケーション技術、③ソーシャルワークのプロセス、④ケース検討を通じた支援内容、⑤支援計画作成方法を習得する。また、施設体験学習を通して社会福祉実践の方法や課題、ワーカーが直面する葛藤等を学ぶ。</p>	<p>本科目は、社会福祉士受験資格取得のために必要な科目です。実際の場を再現して追体験をしたり、コミュニケーション技術の練習をしたり事例検討をしたりします。講義形式とは異なり参加型のプログラムが中心なので、受講生の積極的参加が求められます。施設体験学習では教室では学べないことをたくさん学ぶことができますのでしっかり準備をして実り多いものにしましょう。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：他科目との関連性を理解すると共に本講義の目的を理解する。	他科目との関連性を確認する。
	2	ソーシャルワークの理念、価値	配布資料を読み直して復習する
	3	自己覚知① ライフヒストリー、他者理解	配布資料を読み直して復習する
	4	自己覚知② 価値観交流、援助者としての価値	配布資料を読み直して復習する
	5	基本的コミュニケーション①コミュニケーションの基本的理解	施設体験学習希望届けに記入する
	6	基本的コミュニケーション②言語的、準言語的、非言語的コミュニケーション	配布資料を読み直して復習する
	7	基本的面接技法① 受容・傾聴・共感	配布資料を読み直して復習する
	8	基本的面接技法② 受容・傾聴・共感	施設体験学習事前訪問準備
	9	社会福祉専門職の実践を理解する①高齢者	配布資料の読み直しと発表準備
	10	社会福祉専門職の実践を理解する②障害者	配布資料を読み直して復習する
	11	社会福祉専門職の実践を理解する③子育て家庭	配布資料を読み直して復習する
	12	社会福祉専門職の実践を理解する④地域福祉	配布資料を読み直して復習する
	13	社会福祉専門職の実践を理解する⑤更生保護、その他	配布資料を読み直して復習する
	14	社会福祉専門職の実践を理解する⑥他職種連携	配布資料を読み直して復習する
	15	前期まとめ	前期のふりかえりをする
	16	相談援助の対象、ニーズ。 相談援助の機能	施設体験学習前の事前訪問準備
	17	ニーズの発見	配布資料を読み直して復習する
	18	インテーク/アセスメント	配布資料を読み直して復習する
	19	プランニング、支援の実施	施設体験学習の日誌を作成する
	20	モニタリング、効果測定	施設体験学習の日誌を作成する
	21	支援集結、アフターケア	施設体験学習の日誌を作成する
	22	事例学習①エコロジカルモデル、システム理論	事例学習のふりかえりをする
	23	事例学習②バイオ・サイコ・ソーシャルモデル	事例学習のふりかえりをする
	24	事例学習③エンパワメントアプローチ	事例学習のふりかえりをする
	25	事例学習④ナラティブアプローチ	事例学習のふりかえりをする
	26	事例学習⑤地域組織化アプローチ	事例学習のふりかえりをする
	27	事例学習⑥ソーシャルアクションアプローチ	配布資料を読み直して復習する
	28	社会資源の発掘および活用	配布資料を読み直して復習する
	29	ジェネラリストソーシャルワーク①	配布資料を読み直して復習する
30	ジェネラリストソーシャルワーク②	まとめをする	
31	まとめ		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 教科書および参考文献は随時紹介する。</p>
学びの実践	<p>学びの手立て ①履修の心構え：社会福祉士受験資格取得のために必要な科目も合わせて履修する。2コマ連続の科目であるが、1コマ目の授業開始時にのみ出席確認を行う。 ②学びを深めるために：ボランティア活動に積極的に参加する。ソーシャルワークに関連する文献、研究雑誌を幅広く読む。</p>
	<p>評価 演習への積極的な参加意欲30%、出席状況25%、課題提出状況25%、施設体験学習の総合評価20%</p>
学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 (1) 関連科目：現代社会と福祉、相談援助の理論と方法、相談援助の基盤と専門職、その他 社会福祉士国家試験受験資格を取得するために必要な科目。 (2) 次のステージ：相談援助実習が実り多いものになるよう、さらに勉強と実践に励んでほしい。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習	通年	火1・火2	10
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 美智子	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ソーシャルワーカーはサービス利用者の立場に立ち、利用者の気持ちに寄り添いながらニーズ解決に向けて支援をしていく。実際に支援する際にはソーシャルワークの理念、価値、知識に基づいた技術を用いるが、本科目ではこの支援技術を総合的に学習する。知識と実践をつなげてより深くソーシャルワークを学ぶことがねらいである。</p> <p>到達目標 この科目を通して、ソーシャルワーク実践の基礎的な知識と経験を習得することができます。具体的には、①ワーカーの姿勢、②コミュニケーション技術、③ソーシャルワークのプロセス、④ケース検討を通じた支援内容、⑤支援計画作成方法を習得する。また、施設体験学習を通して社会福祉実践の方法や課題、ワーカーが直面する葛藤等を学ぶ。</p>	<p>本科目は、社会福祉士受験資格取得のために必要な科目です。実際の場を再現して追体験をしたり、コミュニケーション技術の練習をしたり事例検討をしたりします。講義形式とは異なり参加型のプログラムが中心なので、受講生の積極的参加が求められます。施設体験学習では教室では学べないことをたくさん学ぶことができますのでしっかり準備をして実り多いものにしましょう。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：他科目との関連性を理解すると共に本講義の目的を理解する。	他科目との関連性を確認する。
	2	ソーシャルワークの理念、価値	配布資料を読み直して復習する
	3	自己覚知① ライフヒストリー、他者理解	配布資料を読み直して復習する
	4	自己覚知② 価値観交流、援助者としての価値	配布資料を読み直して復習する
	5	基本的コミュニケーション①コミュニケーションの基本的理解	施設体験学習希望届けに記入する
	6	基本的コミュニケーション②言語的、準言語的、非言語的コミュニケーション	配布資料を読み直して復習する
	7	基本的面接技法① 受容・傾聴・共感	配布資料を読み直して復習する
	8	基本的面接技法② 受容・傾聴・共感	施設体験学習事前訪問準備
	9	社会福祉専門職の実践を理解する①高齢者	配布資料の読み直しと発表準備
	10	社会福祉専門職の実践を理解する②障害者	配布資料を読み直して復習する
	11	社会福祉専門職の実践を理解する③子育て家庭	配布資料を読み直して復習する
	12	社会福祉専門職の実践を理解する④地域福祉	配布資料を読み直して復習する
	13	社会福祉専門職の実践を理解する⑤更生保護、その他	配布資料を読み直して復習する
	14	社会福祉専門職の実践を理解する⑥他職種連携	配布資料を読み直して復習する
	15	前期まとめ	前期のふりかえりをする
	16	相談援助の対象、ニーズ。 相談援助の機能	施設体験学習前の事前訪問準備
	17	ニーズの発見	配布資料を読み直して復習する
	18	インテーク/アセスメント	配布資料を読み直して復習する
	19	プランニング、支援の実施	施設体験学習の日誌を作成する
	20	モニタリング、効果測定	施設体験学習の日誌を作成する
	21	支援集結、アフターケア	施設体験学習の日誌を作成する
	22	事例学習①エコロジカルモデル、システム理論	事例学習のふりかえりをする
	23	事例学習②バイオ・サイコ・ソーシャルモデル	事例学習のふりかえりをする
	24	事例学習③エンパワメントアプローチ	事例学習のふりかえりをする
	25	事例学習④ナラティブアプローチ	事例学習のふりかえりをする
	26	事例学習⑤地域組織化アプローチ	事例学習のふりかえりをする
	27	事例学習⑥ソーシャルアクションアプローチ	事例学習のふりかえりをする
	28	社会資源の発掘および活用	配布資料を読み直して復習する
	29	ジェネラリストソーシャルワーク①	配布資料を読み直して復習する
30	ジェネラリストソーシャルワーク②	配布資料を読み直して復習する	
31	まとめ	まとめをする	

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 教科書および参考文献は随時紹介する。</p>
	<p>学びの手立て ①履修の心構え：社会福祉士受験資格取得のために必要な科目も合わせて履修する。2コマ連続の科目であるが、1コマ目の授業開始時にのみ出席確認を行う。 ②学びを深めるために：ボランティア活動に積極的に参加する。ソーシャルワークに関連する文献、研究雑誌を幅広く読む。</p>
	<p>評価 演習への積極的な参加意欲30%、出席状況25%、課題提出状況25%、施設体験学習の総合評価20%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 (1) 関連科目： 現代社会と福祉、相談援助の理論と方法、相談援助の基盤と専門職、その他 社会福祉士国家試験受験資格を取得するために必要な科目。 2) 次のステージ：相談援助実習が実り多いものになるよう、さらに勉強と実践に励んでほしい。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習	通年	火1・火2	10
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲村 小夜子	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ソーシャルワーカーはサービス利用者の立場に立ち、利用者の気持ちに寄り添いながらニーズ解決に向けて支援をしていく。実際に支援する際にはソーシャルワークの理念、価値、知識に基づいた技術を用いるが、本科目ではこの支援技術を総合的に学習する。知識と実践をつなげてより深くソーシャルワークを学ぶことがねらいである。</p> <p>到達目標 この科目を通して、ソーシャルワーク実践の基礎的な知識と経験を習得することができます。具体的には、①ワーカーの姿勢、②コミュニケーション技術、③ソーシャルワークのプロセス、④ケース検討を通じた支援内容、⑤支援計画作成方法を習得する。また、施設体験学習を通して社会福祉実践の方法や課題、ワーカーが直面する葛藤等を学ぶ。</p>	<p>本科目は、社会福祉士受験資格取得のために必要な科目です。実際の場を再現して追体験をしたり、コミュニケーション技術の練習をしたり事例検討をしたりします。講義形式とは異なり参加型のプログラムが中心なので、受講生の積極的参加が求められます。施設体験学習では教室では学べないことをたくさん学ぶことができますのでしっかり準備をして実り多いものにしましょう。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：他科目との関連性を理解すると共に本講義の目的を理解する。	他科目との関連性を確認する。
	2	ソーシャルワークの理念、価値	配布資料を読み直して復習する
	3	自己覚知① ライフヒストリー、他者理解	配布資料を読み直して復習する
	4	自己覚知② 価値観交流、援助者としての価値	配布資料を読み直して復習する
	5	基本的コミュニケーション①コミュニケーションの基本的理解	施設体験学習希望届けに記入する
	6	基本的コミュニケーション②言語的、準言語的、非言語的コミュニケーション	配布資料を読み直して復習する
	7	基本的面接技法① 受容・傾聴・共感	配布資料を読み直して復習する
	8	基本的面接技法② 受容・傾聴・共感	施設体験学習事前訪問準備
	9	社会福祉専門職の実践を理解する①高齢者	配布資料の読み直しと発表準備
	10	社会福祉専門職の実践を理解する②障害者	配布資料を読み直して復習する
	11	社会福祉専門職の実践を理解する③子育て家庭	配布資料を読み直して復習する
	12	社会福祉専門職の実践を理解する④地域福祉	配布資料を読み直して復習する
	13	社会福祉専門職の実践を理解する⑤更生保護、その他	配布資料を読み直して復習する
	14	社会福祉専門職の実践を理解する⑥他職種連携	配布資料を読み直して復習する
	15	前期まとめ	前期のふりかえりをする
	16	相談援助の対象、ニーズ。 相談援助の機能	施設体験学習前の事前訪問準備
	17	ニーズの発見	配布資料を読み直して復習する
	18	インテーク/アセスメント	配布資料を読み直して復習する
	19	プランニング、支援の実施	施設体験学習の日誌を作成する
	20	モニタリング、効果測定	施設体験学習の日誌を作成する
	21	支援集結、アフターケア	施設体験学習の日誌を作成する
	22	事例学習①エコロジカルモデル、システム理論	事例学習のふりかえりをする
	23	事例学習②バイオ・サイコ・ソーシャルモデル	事例学習のふりかえりをする
	24	事例学習③エンパワメントアプローチ	事例学習のふりかえりをする
	25	事例学習④ナラティブアプローチ	事例学習のふりかえりをする
	26	事例学習⑤地域組織化アプローチ	事例学習のふりかえりをする
	27	事例学習⑥ソーシャルアクションアプローチ	
	28	社会資源の発掘および活用	配布資料を読み直して復習する
	29	ジェネラリストソーシャルワーク①	配布資料を読み直して復習する
30	ジェネラリストソーシャルワーク②	配布資料を読み直して復習する	
31	まとめ	まとめをする	

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 教科書および参考文献は随時紹介する。</p>
	<p>学びの手立て ①履修の心構え：社会福祉士受験資格取得のために必要な科目も合わせて履修する。2コマ連続の科目であるが、1コマ目の授業開始時にのみ出席確認を行う。 ②学びを深めるために：ボランティア活動に積極的に参加する。ソーシャルワークに関連する文献、研究雑誌を幅広く読む。</p>
	<p>評価 演習への積極的な参加意欲30%、出席状況25%、課題提出状況25%、施設体験学習の総合評価20%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 (1) 関連科目：現代社会と福祉、相談援助の理論と方法、相談援助の基盤と専門職、その他 社会福祉士国家試験受験資格を取得するために必要な科目。 (2) 次のステージ：相談援助実習が実り多いものになるよう、さらに勉強と実践に励んでほしい。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助実習指導	通年	火3	6
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	3年	比嘉研究室：5-418 mahiga@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	相談援助実習(事前・事後指導含む)を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。また、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等の知識・能力を習得する。さらに、実習全体を通して関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。	待ちに待った現場実習で、期待と不安が交錯していることでしょうか。不安を払拭するには、自ら積極的に準備するしかありません。ゼミ生とともに楽しく取り組んで下さい。
到達目標	事前学習を通して実習の準備をしっかりと行い、自らの実習に対する不安を払拭する。また、事後学習では自らの実習を振り返ることを主としつつも、他のゼミ生の実習体験も共有することで社会福祉士がジェネラリストであることを理解する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	オリエンテーション	※各自予習・復習を行うこと。
	2	相談援助実習の意義と位置づけ	
	3	社会福祉士倫理綱領理解	
	4	実習計画書・実習日誌概説	
	5	実習計画書作成：実習目標達成等理解	
	6	実習日誌作成方法：実習日誌作成意義等理解	
	7	実習オリエンテーションⅡ（合同）	提出書類は期限を守ること。
	8	実習配属先理解①：施設・機関等理解	
	9	実習配属先理解②：施設・機関等理解	
	10	実習配属先理解③：施設・機関等理解	
	11	実習配属先理解④：施設・機関等理解	
	12	実習オリエンテーションⅢ（各ゼミ）	各自、実習目標を完成させる。
	13	実習配属予定施設・機関事前訪問指導	
	14	実習の心得・実習目標等再確認	実習に向けて最終確認。
	15	前期のまとめ	
	16	後期オリエンテーション	実習報告書(個人)作成の準備。
	17	実習成果の整理と共有①：意義	
	18	実習成果の整理と共有②：グループ	
	19	実習成果の整理と共有③：グループ	
	20	実習成果の整理と共有④：グループ	
	21	実習成果の整理と共有⑤：グループ	
	22	実習報告書の作成①：作成要領等概説	
	23	実習報告書の作成②：個別取り組み	
	24	実習報告書の作成③：個別取り組み	
	25	実習報告書の作成④：個別取り組み	実習報告書(個人)提出➡期限を確認
	26	実習成果の整理と共有⑥：個別	
	27	実習成果の整理と共有⑦：個別	
	28	実習成果の整理と共有⑧：個別	
	29	相談援助実習報告会（合同）①	実習報告書(ゼミ単位)の製本。
30	相談援助実習報告会（合同）②		
31	全体振り返り		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。 必要に応じて適宜紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て これまでの学びを総動員して相談援助実習に備える。特に自ら行く施設・機関については、よく調べておくこと。一方、事後学習についてはジェネリックソーシャルワークを意識し、他のゼミ生の実習経験も共有しながらも学ぶこと。</p>
	<p>評価 出席状況、実習報告書、課題提出状況及び配属先の実習指導担当者の評価などを総合的にみて評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 最終学年で受講する社会福祉士関連科目では、社会福祉士＝ジェネラリストであることを意識しながら、学んでほしい。また、国家試験に向けて準備すること。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助実習指導	通年	火3	6
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富 郁哉	3年	担当教員宛にメールして下さい。 i.ashitomi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本相談援助実習指導のねらいは、①配属実習を通して、専門的な知識・技術・関連知識の理解を深めること②専門従事者としての倫理観等の形成を目指す③多職種連携について学ぶことである。	単に、社会福祉士国家試験の受験資格を取得するという気持ちで受講するのではなく、本科目のねらいを十分に熟知すること。

到達目標	到達目標は①福祉専門従事者としての専門知識、技術を習得すること②福祉専門従事者としての倫理観を身につけること③多職種連携のあり方を理解することである。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・受講生登録確認	
	2	相談援助実習までの流れ 日本社会福祉士会倫理綱領	倫理綱領熟読
	3	日本社会福祉士会倫理綱領	倫理綱領熟読
	4	バイスティックの7原則説明	バイスティック7原則熟読・暗記
	5	相談援助実習オリエンテーションⅡ（合同）	バイスティック7原則熟読・暗記
	6	日本社会福祉士会倫理綱領及び医療ソーシャルワーカー倫理綱領	医療ソーシャルワーカー倫理綱領
	7	実習達成目標について	実習達成目標を考える
	8	現4年生からの配属先別アドバイス（4年生と合同）	実習に対する心配事など考える
	9	相談援助実習オリエンテーションⅢ（ゼミ別）	
	10	接遇（社会人招聘：接遇指導）	接遇で大事なことは
	11	相談援助実習配属先について事前学習① グループ学習	配属先情報の入手
	12	相談援助実習配属先について事前学習② グループ学習	
	13	相談援助実習配属先について事前学習③ グループ学習	
	14	実習日誌の書き方・注意点など①	他大学の日誌記述要項を調べる
	15	実習日誌の書き方・注意点など②	
	16	実習日誌の書き方・注意点など③ 前期振り返り	
	17	実習配属先への礼状要領 実習振り返り①	
	18	実習振り返り①	
	19	実習振り返り②	
	20	実習振り返り③	
	21	実習報告書作成要項説明及び形式	
	22	実習報告書各自で取り組む①	
	23	実習報告書各自で取り組む②	
	24	実習報告書印刷①	
	25	実習報告書印刷②	
	26	実習報告会（ゼミ内）①	報告会準備 パワーポイント
	27	実習報告会（ゼミ内）②	報告会準備 パワーポイント
	28	実習報告会（ゼミ内）③	報告会準備 パワーポイント
	29	実習報告会（ゼミ内）④	報告会準備 パワーポイント
30	予備日		
31	ゼミ振り返り		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 特にテキストは指定しない。資料については随時配付する。</p>
	<p>学びの手立て ソーシャルワーカーの倫理綱領をしっかりと熟読し、理解すること。バイステックの7原則を覚え、しっかりと理解すること。</p>
	<p>評価 評価については、出席率、実習報告書の提出、実習報告の内容、ゼミ内での発言回数などを重視する。また、相談援助実習に関しては、実習配属先の指導者の評価を勘案する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 常に福祉に関わる従事者としての倫理観、人格等の形成をこころがけることが必要である。関連科目としては、相談援助の理論と方法などがある。</p>

※ポリシーとの関連性

社会福祉士受験資格に必須な科目であり、現場での配属実習と閉講する科目として、現場での実習に関連させながら講義を進める

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助実習指導	通年	火3	6
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	保良 昌徳	3年	講義中に受けつける オフィスアワーの活用を歓迎する	

学びの準備	ねらい 前期は、配属実習に必要な知識・技術について再確認と補足を行う 後期は、配属実習と閉講しながら専門職となるべく必要な知識・技術の精度を高める	メッセージ 机上の学習だけではなく、現場において責任をもって対応できる為に必要とされる知識・技術・倫理観・多専門職との連携、対象者に対する専門職としてのあり方を常に心にとめて学習に臨むこと
	到達目標 講義で提示されたキーワードの修得 講義で提示された介護・面接・対人援助技術等の修得 専門職としての意識・倫理の修得	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)	
	テキスト・参考文献・資料など	
	学びの手立て	
	評価	

学びのヒント	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)	
	テキスト・参考文献・資料など	
	学びの手立て	
	評価	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

相談援助演習で習得したことを踏まえ、また、180時間の相談援助実習を通して、ソーシャルワークの専門性を高めます。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助実習指導	通年	火3	6
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	3年	授業終了後に受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ 相談援助実習は多くの関係者のご指導や協力を得て初めて成立します。感謝と自覚をもって学びましょう。
	到達目標 事前学習および実習で習得したことを通してソーシャルワークの理念、知識、技術について深く考察することができます。また、実習報告会を通してソーシャルワークについて議論を深めることができます。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期オリエンテーション①ゼミの概要	オリエンテーションの振り返り
	2	前期オリエンテーション②年間スケジュール確認、その他ゼミ体制づくり	ボランティア活動の準備
	3	事前学習①障害者福祉の国際的動向	事前学習における発表の準備
	4	事前学習②障害者福祉の国内動向	事前学習における発表の準備
	5	相談援助実習オリエンテーション	事前学習における発表の準備
	6	事前学習⑥配属施設の理解	講義の振り返り
	7	事前学習④配属施設の理解	ボランティア活動報告準備
	8	事前学習⑤配属施設の理解	ボランティア活動で日誌の練習
	9	事前学習⑦援助技術の理解～日誌の書き方	ボランティア活動で日誌の練習
	10	事前学習⑦援助技術の理解～個別支援	実習計画書の作成準備
	11	事前学習⑧援助技術の理解～家族支援、地域支援	実習計画書の作成準備
	12	事前学習⑨援助技術の理解～アウトリーチ、社会資源の連携、発掘	個別支援計画に関する集中講義準備
	13	相談援助実習オリエンテーション	個別支援計画に関する集中講義準備
	14	事前訪問報告会	個別支援計画に関する集中講義準備
	15	前期まとめ	個別支援計画に関する集中講義復習
	16	後期オリエンテーション	オリエンテーションの振り返り
	17	事後学習①ジェネラリストソーシャルワークの理解	資料の復習
	18	事後学習②ソーシャルワーカーの役割の理解	実習報告の準備
	19	事後学習③実習報告	実習報告の準備
	20	事後学習④実習報告	実習報告の準備
	21	事後学習⑤実習報告	実習報告の準備
	22	事後学習⑥実習報告	実習報告の準備
	23	実習施設訪問①発表およびディスカッション	ディスカッションの振り返り
	24	ソーシャルワークアプローチの理解①	資料の復習
	25	ソーシャルワークアプローチの理解②	資料の復習
	26	ソーシャルワークアプローチの理解③	資料の復習
	27	実習施設訪問②発表およびディスカッション	ディスカッションの振り返り
	28	実習報告書作成①	実習報告書の印刷など
29	実習報告書作成②	2月実施実習報告会準備	
30	実習報告会準備	2月実施実習報告会準備	
31	後期まとめ	2月実施実習報告会準備	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 講義時に随時紹介します。指定のテキストはありません。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 事前学習が重要ですのでしっかり取り組みましょう。また、文献やボランティア活動等を通して障害の特性を理解しておきましょう。</p>
学 び の 継 続	<p>評価 事前学習の取り組み（40％）、事後学習の取り組み（40％）、実習報告会の取り組み（20％）</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 次のステージ：ソーシャルワークの学びを深める。関連科目：社会福祉専攻専門科目</p>